

# 電力小売全面自由化の進捗状況について

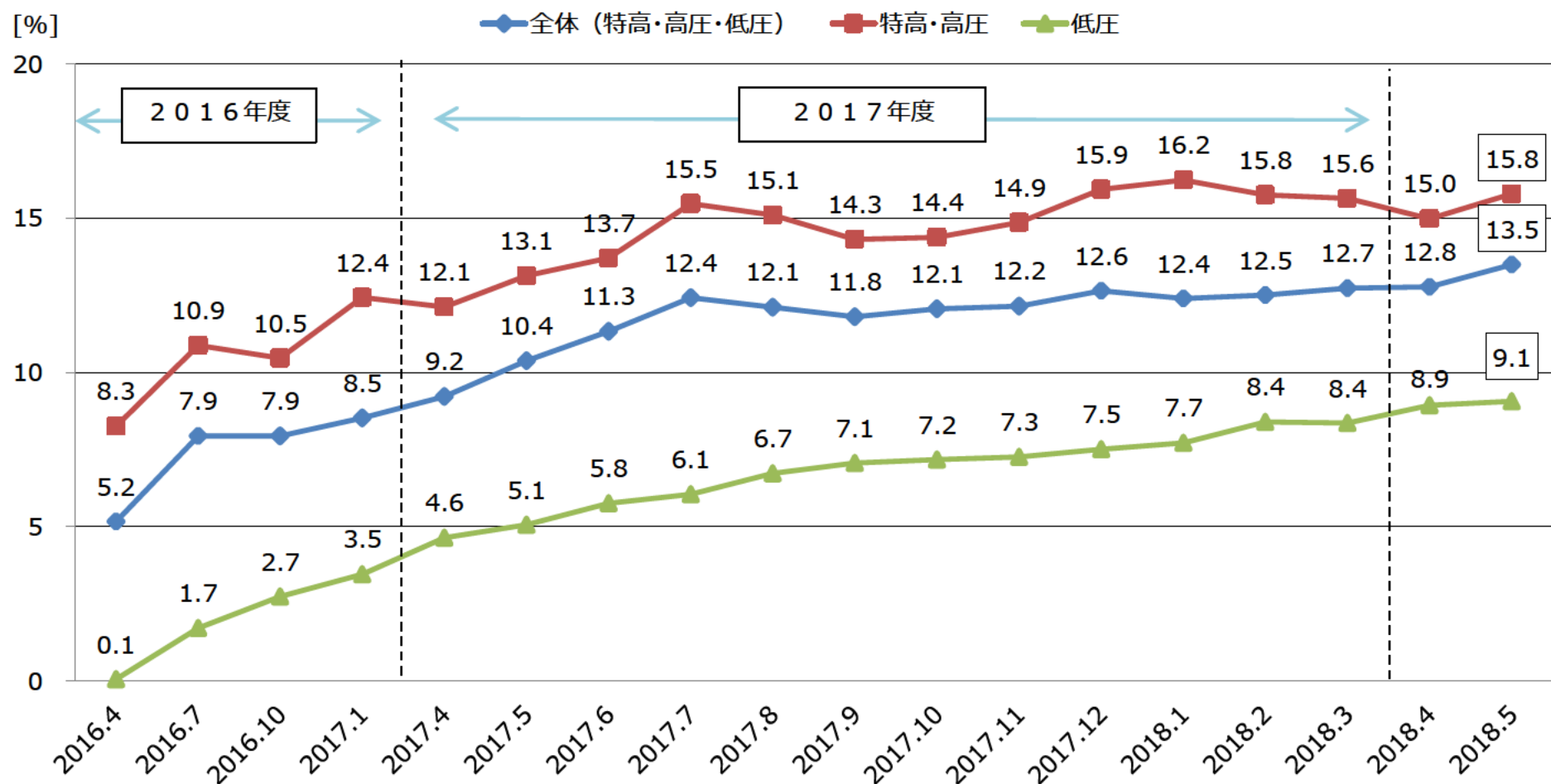
2018年9月18日

資源エネルギー庁

# 新電力シェア・卸取引の状況等について

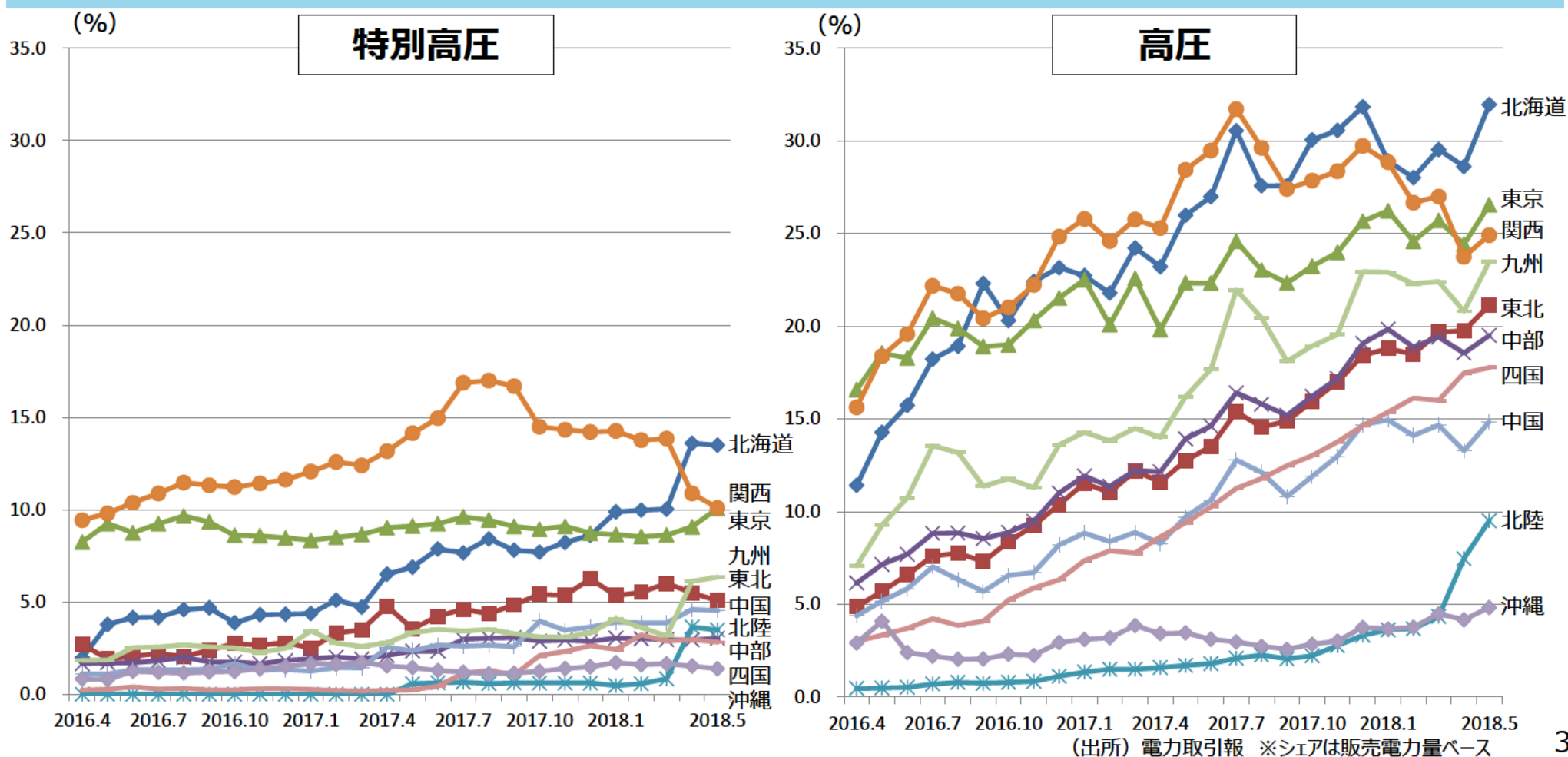
# 新電力のシェアの推移

- 全販売電力量に占める新電力のシェアは、2016年4月の全面自由化直後は約5%だったが、2017年5月以降10%を超え、2018年5月時点では約13.5%となっている。
- 電圧別では、特別高圧・高圧分野（大口需要家向け）は時期により変動しつつも、全体的には上昇傾向にある一方、低圧分野は堅調に推移し、約9%となっている。



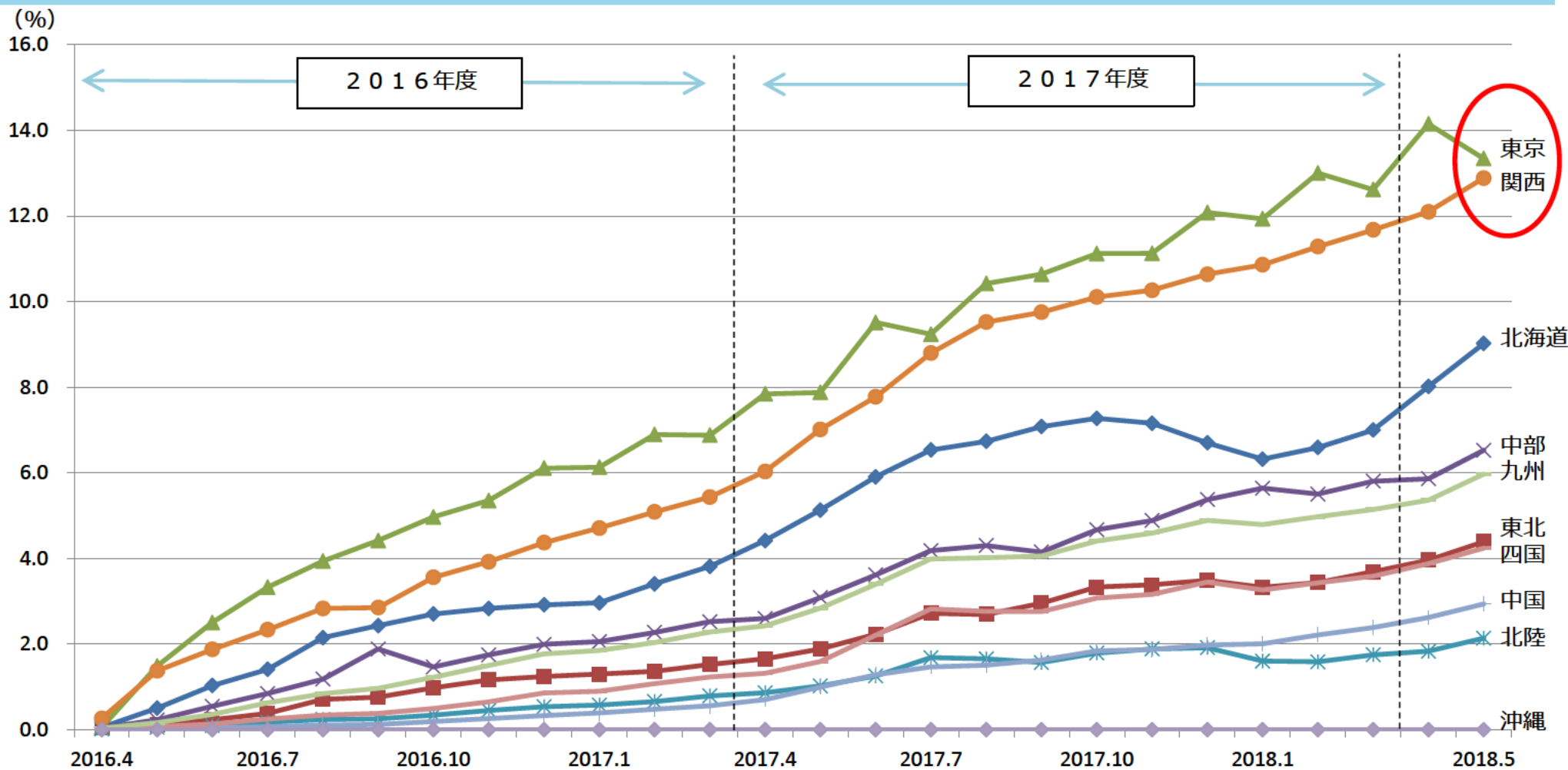
# 特別高圧・高圧分野の新電力シェア（地域別）

- 電圧別では、特別高圧分野においては新電力のシェアが多く地域で10%以内で推移し、2018年4月に変化がみられる地域がある一方で、高圧分野においては多くの地域で新電力のシェアが15%を超え、時期によって増減しているものの増加傾向にある。
- 地域別では、北海道・東京・関西における高圧分野でのシェアが、25~30%程度で推移しており、北陸では2018年4月に急上昇している。



# 低圧分野の新電力シェア（地域別）

- 低圧分野の新電力のシェアについては、2017年3月時点と比べると、多くの地域で約2倍に伸びている。
- 地域別では、2018年5月現在、東京（13.3%） 及び 関西（12.9%） で10%を超えている。



# 低圧分野のスイッチングの状況（2018年6月時点）

- 2018年6月末時点での新電力への切替（スイッチング）件数は約11.3%（約706万件）、大手電力（旧一般電気事業者）の自社内の契約の切替件数（規制→自由）は約7.0%（約435万件）であり、合わせて約18.3%（約1,141万件）となっている。
- スwitching率を地域別に見ると、東京（15.5%）、関西（14.8%）、北海道（11.4%）で10%を超えている。

スイッチング（大手→新電力）件数（6月末）

| 管内  | 他社切替実績<br>【単位：万件】 | 率 ※<br>【単位：%】 |
|-----|-------------------|---------------|
| 北海道 | 31.3              | 11.4          |
| 東北  | 27.8              | 5.1           |
| 東京  | 356.8             | 15.5          |
| 中部  | 66.9              | 8.8           |
| 北陸  | 4.1               | 3.3           |
| 関西  | 149.4             | 14.8          |
| 中国  | 12.2              | 3.5           |
| 四国  | 10.8              | 5.6           |
| 九州  | 46.7              | 7.5           |
| 沖縄  | α                 | α             |
| 全国  | 706.0             | 11.3          |

大手自社内契約切替（規制→自由）件数（6月末）

| 管内  | 自社内切替実績<br>【単位：万件】 | 率 ※<br>【単位：%】 |
|-----|--------------------|---------------|
| 北海道 | 2.7                | 1.0           |
| 東北  | 10.9               | 2.0           |
| 東京  | 104.4              | 4.5           |
| 中部  | 139.6              | 18.3          |
| 北陸  | 3.9                | 3.2           |
| 関西  | 82.3               | 8.2           |
| 中国  | 48.0               | 13.7          |
| 四国  | 13.7               | 7.1           |
| 九州  | 29.6               | 4.8           |
| 沖縄  | 0.2                | 0.3           |
| 全国  | 435.4              | 7.0           |

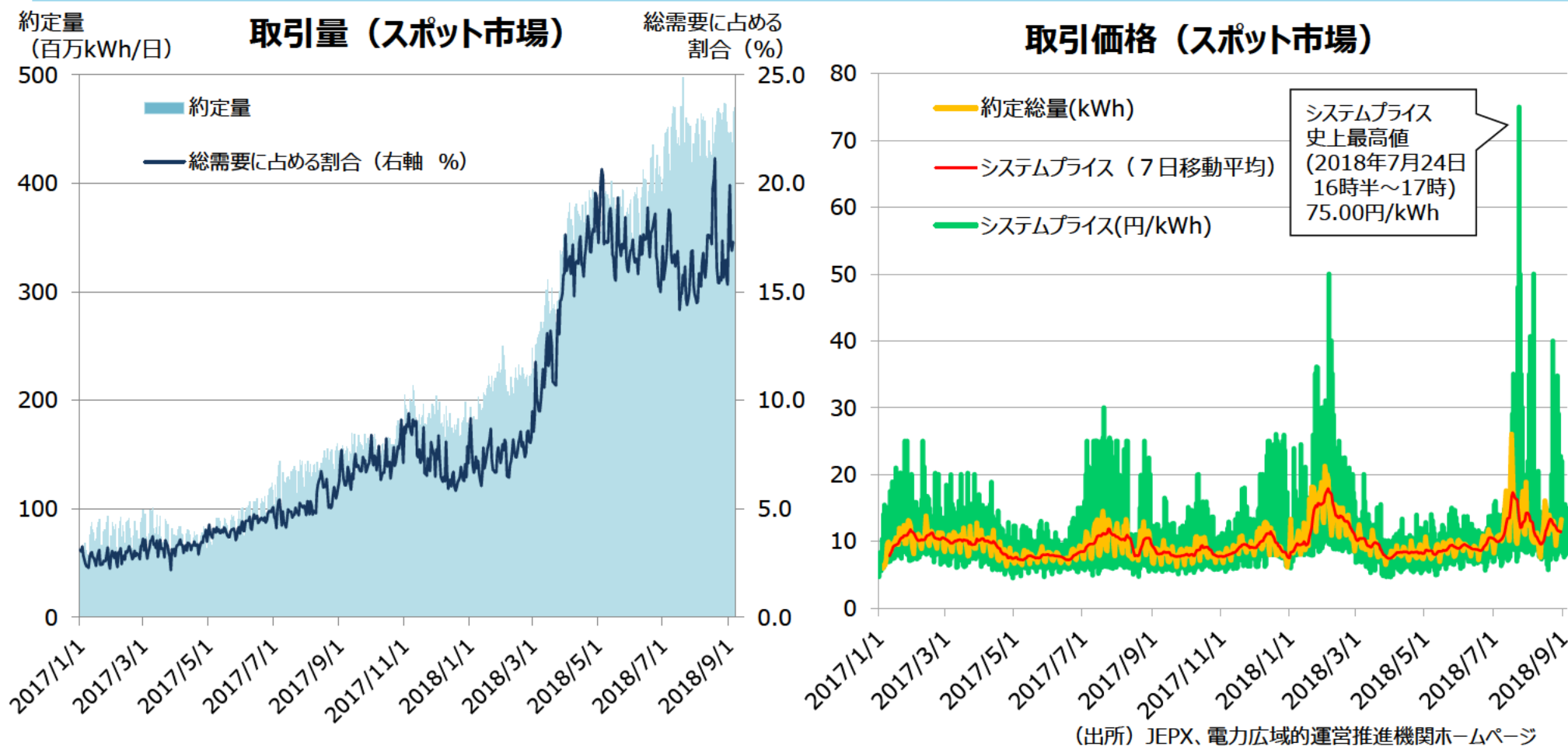
（注）αは0.1未満を意味する。

（出所）電力取引報

※ 2016年3月の一般家庭等の通常の契約口数（約6,253万件）を用いて試算。なお、2016年3月の低圧の総契約口数は約8,600万件だが、旧選択約款や公衆街路灯の契約などは、実態としてスイッチングが起きることが想定されにくく、母数から除外。また、同一需要家による供給事業者の変更や、大手電力の規制料金・自由料金メニュー間での契約種変更は、複数回行われた場合、その都度、スイッチングとしてカウントされることに留意。

# 卸電力取引所の取引状況（取引量・取引価格）

- 小売全面自由化以降、卸電力取引所の取引量は大幅に増加。特に2018年4月以降は、1日当たりの取引量が4億kWhを超える日もあり、全需要の15～20%（※）で推移している。 ※電力広域的運営推進機関発表の需要実績（速報値）を基に算出
- 足元7～8月の取引価格は一時的に急騰するコマも見られ、7月24日には75.00円/kWhを、7月25日には関西エリアプライスが100.02円/kWhを記録した。





## 「平成30年北海道胆振東部地震」に伴う卸取引市場への影響について

- 2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震に伴い、同日より、北海道エリアにおけるスポット取引が停止されている。
- また、JEPXでは、取引から5日後までに、インバランス精算に係る $\alpha$ の速報値の公表を行うこととされており、 $\alpha$ の算定に当たっては、全国のインバランスデータが必要となるところ、この間は、北海道のエリアインバランスデータを除いた形で算定された $\alpha$ の速報値の公表が行われている。
- 今後、JEPXにおいて、9月分の $\alpha$ の速報値を11月に公表することとなるところ、この間の $\alpha$ 値の取扱い等については、関係機関と協力しつつ、実際のインバランスデータも踏まえ、検討を行っていくことが必要。

$$\text{インバランス精算単価} = \text{スポット市場価格と1時間前市場価格の30分毎の加重平均値} \times \alpha + \beta$$

$\alpha$  : 系統全体の需給状況に応じた調整項

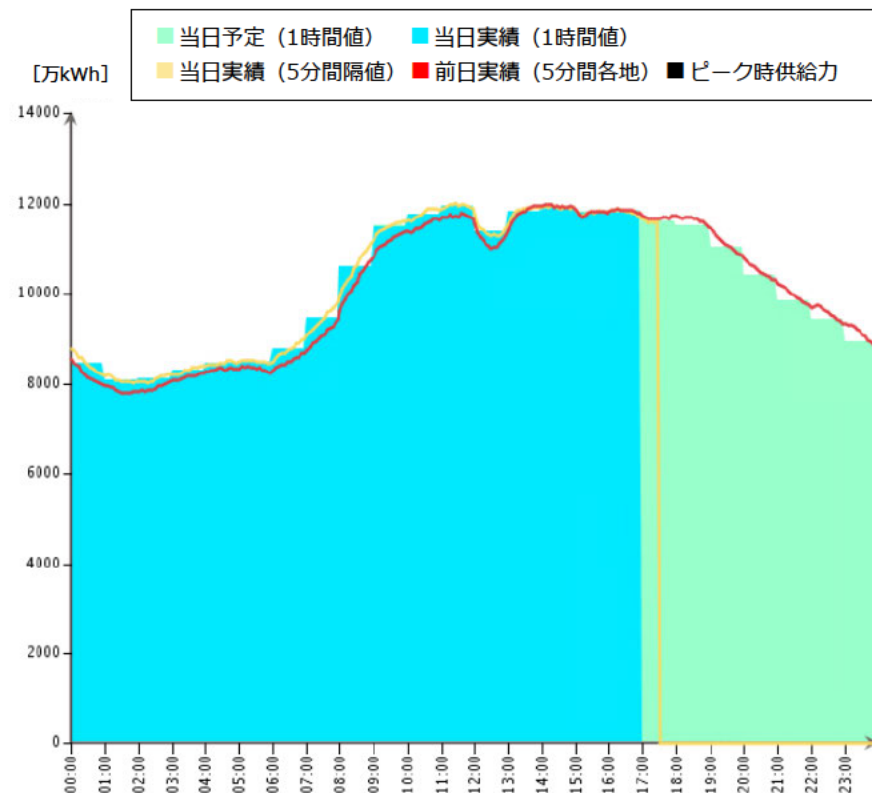
$\beta$  : 地域ごとの市場価格差を反映する調整項



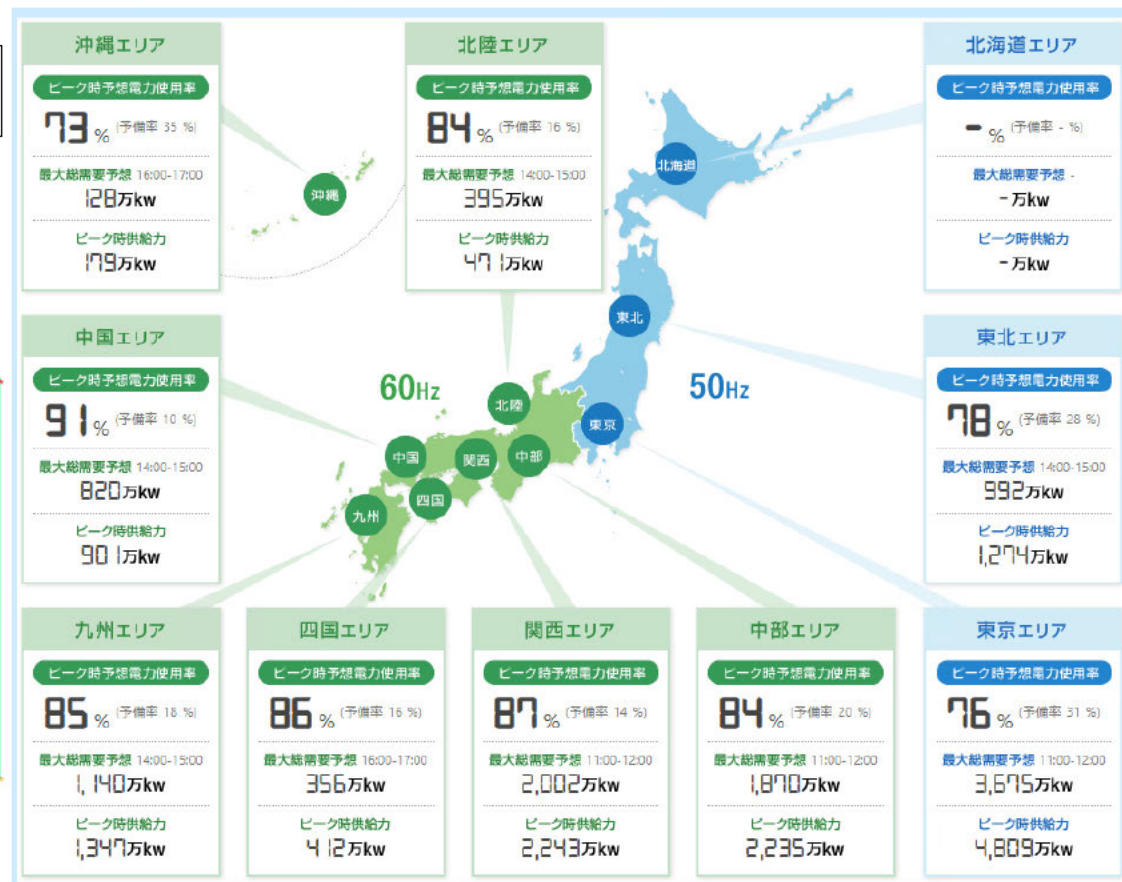
# 需給実績の情報開示について

# 需給情報の公表について（リアルタイム情報）

- 資源エネルギー庁が定める「系統情報の公表の考え方(2016年4月改定)」に基づき、一般送配電事業者はいわゆる「でんき予報」として、2016年4月以降のエリア別需要実績(5分値)等を各社HPにおいてリアルタイム（概ね30分後）に公表している。
- また、それらのデータを統合する形で、電力広域的運営推進機関は同機関のウェブサイトにおいて各社のリアルタイム情報を即座に掲載している。



(出所) 電力広域的運営推進機関HP「電力使用状況（でんき予報）」



# (参考) でんき予報へのアクセス方法

- 下記の要領で、広域機関HP上にある、電力使用状況（でんき予報）を確認することができる。

電力広域的運営推進機関  
Organization for Cross-regional Coordination of  
Transmission Operators, JAPAN

OCCTO

POWERED BY Yahoo! JAPAN

サイト内検索

会員専用  
広域機関システム

会員専用  
スイッチング支援システム

ホーム 広域機関とは 広域機関システム計画提出  
間接オークション スwitching 30分電力量 需要想定供給計画 広域系統長期方針整備計画 系統アクセス

新着情報・更新情報 一覧を見る RSS

広域機関システム [ログインユーザ情報] [本システムについて] [ログアウト]

公表

|             |                 |                 |
|-------------|-----------------|-----------------|
| 地域間連系線情報    | 電力使用状況（でんき予報）参照 | 電力使用状況（でんき予報）参照 |
| 地内基幹送電線関連情報 | 電力需要予想・ピーク時電力   | 電力使用状況（でんき予報）   |
| 需給関連情報      | 電力需要実績参照        | 電力需要予想・ピーク時電力   |
| 作業停止計画      | 供給区域別の需要実績      | 電力需要予想・ピーク時電力   |
| 再生可能エネルギー   | 供給区域別の供給実績      | 需要実績参照          |
| その他情報       |                 | 需要実績            |
| ダウンロード情報    |                 | 供給区域別の需要実績      |
|             |                 | 北海道電力           |
|             |                 | 東北電力            |
|             |                 | 東京電力            |
|             |                 | 中部電力            |
|             |                 | 北陸電力            |
|             |                 | 関西電力            |
|             |                 | 中国電力            |
|             |                 | 四国電力            |
|             |                 | 九州電力            |
|             |                 | 沖縄電力            |

定款・業務規程・送配電等業務指針

総会・理事会・評議員会

各種委員会・検討会

報告書・取りまとめ

会員に関する情報（加入・変更等）

相談・紛争解決

系統情報サービス

でんき

①クリック

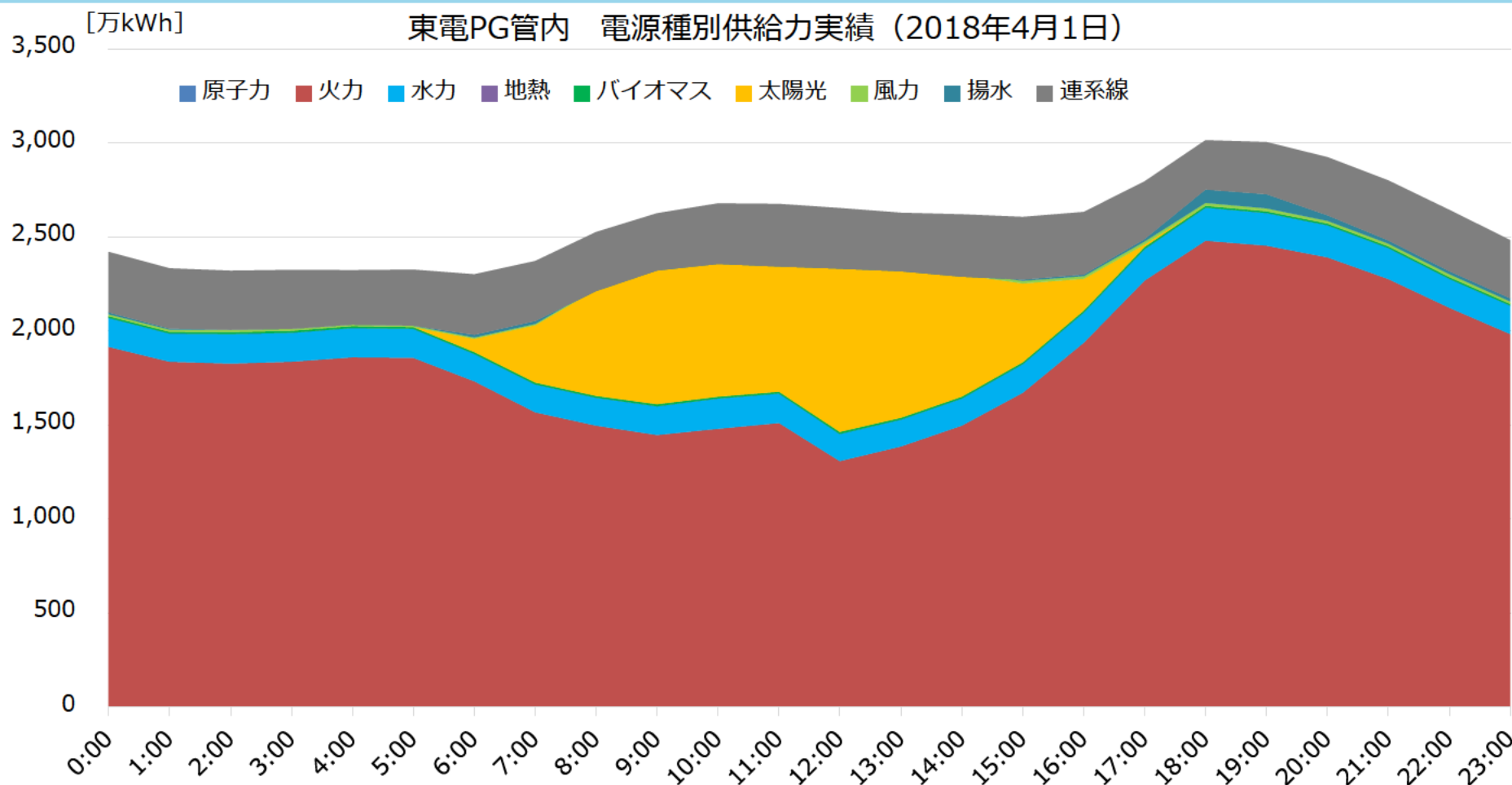
②クリック

③クリック

(出所) 広域機関HP

# 需給情報の公表について（電源種別）

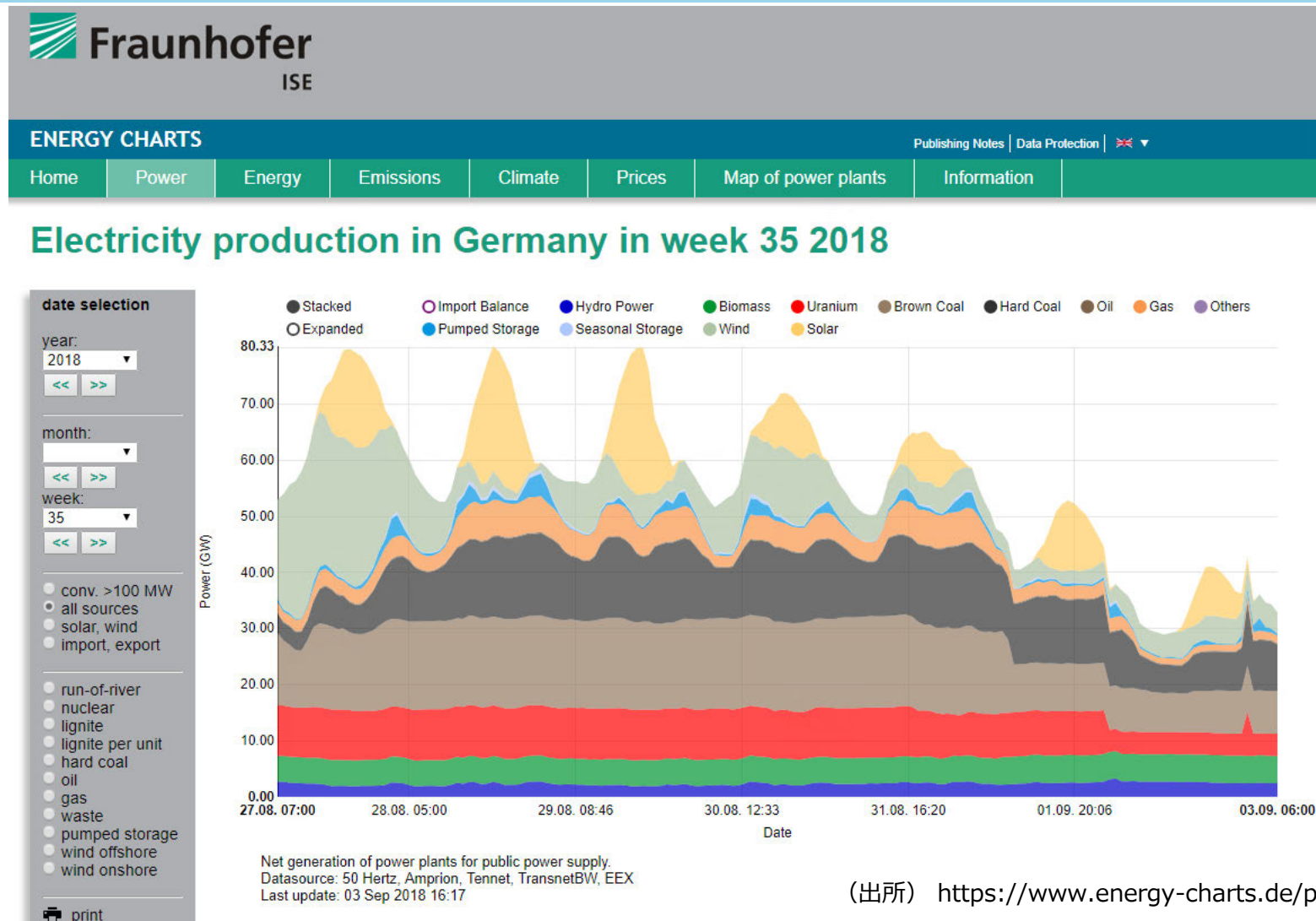
- 電源種別の供給実績について、一般送配電事業者は「系統情報の公表の考え方」に基づき、四半期ごとに各社HPにおいて「1時間値」をCSV形式で公表しており、広域機関は各社HPのURLを引用する形でとりまとめを行っている。
- 仮に、公表されているCSV形式のデータを加工した場合、下図のようなグラフが描ける。



（出所）東電PGウェブサイト「エリア需給実績公表について」のデータを資源エネルギー庁が加工

# (参考) ドイツの事例

- ドイツでは、透明性確保の観点から、フラウンホーファー研究機構傘下のISE研究所が、数時間程度の遅れでドイツ国内供給実績(1時間値)を電源種別にグラフ化し、HPで公表している。



# 需給情報の公表に関する今後の方向性

- 「系統情報の公表の考え方」においては、「リアルタイム需給情報の公開は、ひとえに需給の観点だけではなく、今後、電力システム改革を進め、一般送配電事業者の中立性、公平性を徹底する観点からも非常に重要である」とされている。
- また、電源種別の供給実績の情報が速やかに公開されることで、デマンドリスポンスや省エネのコンサルティングなど、新たなビジネス機会の拡大につながることも期待される。
- さらに、これまでの審議会においても、委員からは電源種別の供給実績の速やかな公開を望む声が寄せられている。
- こうした要請に応える観点から、どのような改善が可能であるのかにつき、今後、システム改修に要する費用、期間なども踏まえつつ、関係機関の間で検討すべき課題について整理していくこととしてはどうか。